

「身の回りの物に..感謝」

教頭 保坂 泰司

本日で、平成29年度の教育課程を無事に終了することができました。これもひとえに地域・保護者の皆様による日頃の本校に対するご理解ご協力の積み重ねがあつてのことと感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、話は変わりますが、校内を歩いていると時々、教室や廊下に鉛筆や消しゴム、その他の学習で使うものが落ちているのを目にすることが多々あります。大抵それらの落とし物はそのままだま放置されるか落とし物箱に入れられます。落とし物箱に入れられたものが持ち主に戻ればいいのですが、すべてがそうというわけにはなかなかいきません。そんな現実を見て、「もったいないなあ」と日々思っていました。まずは自分の物に名前を書き、大切に扱うことです。もし、無くしてしまつたらそのことに気付くことです。そしてクラスで、もし誰かの落とし物を見つけたら、それを拾って声を掛けることを当たり前とする雰囲気があれば落とし物の数は減少するはずです。なぜ、唐突にこのようなことを書いたかという、先日、「自分が変わる靴磨きの習慣(長谷川 裕也著)」という本を読む機会があつたからです。そこには、人にとって最も身近なものの一つである「靴」について次のような記述がありました。『靴こそは最高の相棒』である。なぜなら、いつも足元から支えてくれて、どんな状況でも、黙って泣き言も言わず、付き合ってくれる」と。その時思ったことは、靴だけではなく、子どもたちが普段使う鉛筆や消しゴム、その他の学用品すべてにも同じことが言えるのではないかということでした。鉛筆は、文字を書くものであり、芯が尖がっていればきれいな文字が書ける。落とすと芯が折れてしまうが文句を言わない。消しゴムは間違つて書いてしまったところを消すもの、鉛筆同様、使えば使うほど小さくなってしまつても、それでも文句を言わない。文句を言わないから雑に扱つていい訳にはなりません。文句を言わずに常に身近にある物にこそ感謝し、大切に扱つていかなければならないと考えます。そうすれば、物をなくさなくなり、日々気分よく生活や学習ができるようになります。さらにそれが当たり前のことになれば、子どもはよりよく変容し、その範囲は無限のものになると確信します。そのため、次年度以降も引き続き学校で物を大切にすることの指導に努め、伝統ある大宮小学校をさらによくして参ります。

さて、明日から4月8日(日)まで、春休みとなります。充実した休みとなるよう、ご家庭でも引き続き「あおぎりっ子5つのやくそく」と交通安全「止まる・見る・待つ・確かめる」を大切にしていだければと思います。そして、始業式では、1学年お兄さん・お姉さんになった子どもたちと会えるのを楽しみにしています。

最後に、地域・保護者の皆様、今年度1年間、本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございました。次年度も子どもたちのよりよい成長のために、登下校の見守りや学校行事等で、引き続きご協力いただきますようよろしくお願いいたします。